

待 陵 通 信 第16号

平成 24 年 8 月 17 日
(敬称略)

①計報 平成 24 年 6 月 11 日以降に判明した方々 謹んでご冥福をお祈り致します。

3 理甲	清水 威寛	平成 24 年 6 月 2 日	神奈川県湯河原町
13 文甲	田辺 香苗	平成 24 年 6 月 30 日	大阪市住之江区
18 理甲 3	吉原 政尚	平成 24 年 4 月 1 日	東京都品川区
22 理 2	寺下 博	平成 24 年 3 月 5 日	堺市南区

②住居・勤務先変更

- ・今西 芳子 (7 理甲故今西壽雄元同窓会長夫人)
〒 466-0829 名古屋市昭和区向山町 1-1-1 ハイリタイア南山
- ・22 文甲 2 三輪 昭五 〒 157-0066 東京都世田谷区成城 4-33-1-308
携帯電話 090-6568-8224 (固定電話手続き中)

③午餐会・懇話会

- *第 493 回午餐会 24 年 6 月 11 日 (月) 正午～14 時 30 分
於 中央電気倶楽部 317 号室
講師 大阪城天守閣研究主幹 北川 央 氏
テーマ 『石山』本願寺と大坂城」 出席者 34 名
- *第 494 回午餐会 24 年 7 月 7 日 (土) 正午～14 時 30 分
於 中央電気倶楽部 317 号室
講師 岩根 正尚 氏 (6 文甲 岩根 一正氏令息)
テーマ 「外野席から見た旧制高校」 出席者 33 名
- *文楽夏休み特別公演鑑賞会 24 年 7 月 26 日 (木)
第 2 部 「摂州合邦辻」「伊勢音頭恋寝刃」「契情倭莊子」 参加 15 名
第 3 部 「曾根崎心中」 参加 8 名

④各地寮歌祭

- ・第 2 回大阪寮歌祭 24 年 3 月 25 日 (日) 於 大阪弥生会館
- ・第 2 回松江ライン寮歌祭 24 年 4 月 7 日 (土) 於 ホテル一畑
- ・第 33 回岡山寮歌祭 24 年 5 月 20 日 (日) 於 倉敷アイビースクエア
- 以上 3 件 19 理甲 1 津田泰男寮歌祭委員が代表参加
- ・埼玉寮歌祭 24 年 7 月 1 日 (日) 於 さいたま市 清水園
参加者 15 理乙岸保芳郎・16 理 1 清岡繁夫・19 理甲 4 藤田宏・同夫人
19 理甲 2 武田聰光・21 文甲 2 田中昂・21 文乙渡辺榮衛 以上 7 名

⑤支部だより

- *京都支部 京都待兼会 24 年 7 月 1 日 (日) 12 時～14 時
於 リーガロイヤルホテル京都 薔薇の間
出席者 12 理甲三宅敏夫・17 理甲 2 西岡邦夫・18 理甲 3 柚口貞夫・19 理甲 1
寿栄松憲昭・20 文甲香西茂・20 理 1 土橋幸雄 (奈良支部長)・21 理 2 柳秀夫
以上 7 名
スピーチ 西岡邦夫(元住友金属常務・鳴海製陶社長)
演題 「ロクロと車 (洋食器の世界と新幹線車軸の安全性への対応)」というテーマ
で、洋食器の材質の比較や諸問題を日常接していながら知らなかったことを話して
いただいた。また金属疲労の歴史や車軸の安全性、新幹線事故対応について原
発事故との関連を皆で話し合う機会をもった。
- *関東浪高会 7 月午餐会 24 年 7 月 10 日 (火) 正午～14 時
於 新橋 かに道楽

出席者 12 文乙平井廸郎・13 理甲蜂谷謙一・15 理乙岸保芳郎・16 理 1 清岡繁夫・
 16 理 2 山田庄一・19 理甲 2 武田聰光・21 文甲 2 田中昂・中川種寿・
 21 文乙渡辺榮衡・22 文甲 1 増井正治・22 文乙亀田一彦 以上 11 名
 少数の出席者であったが、全員より活発な発言があり、有意義な会合であった。
 ・埼玉寮歌祭 前掲④各地寮歌祭参照

⑥同期同級交歓＊

＊ 21 回生入学 65 周年の集い 24 年 6 月 21 日（木）11 時～14 時 40 分

於 大阪第一ホテル 6 F

スピーチ 21 理 4 川島康生（国立循環器病センター名誉総長）

演題 「命惜しくば医者を選べ」

出席者 文甲 1 伊藤七郎・海老澤志津子・額川勉二・小原美子・梶谷亘・黒田登代・
 坂本節也・真銅孝三・同邦子・徳久俊彦（東京）・前川年朗（福山）・
 圓井孝一・同好子（徳島）・森太郎
 文甲 2 茅野健・田中昂（東京）・露口佳彦・同三枝子・中川種寿（東京）・
 渡辺祐吉・同節（四日市）
 文乙 今井睦子・武田保（東京）・富田三郎・文箭安雄・同恵子・村田正孝・
 同貞子・渡辺榮衡（東京）
 理 1 神山達生・小谷剛造・近藤雅臣・山田茂樹・同宣子・山本稔
 理 2 乾宰人・井上貞信・大島邦義・川口享・佐藤孝子・島隆夫・丹波元吉・
 武田晃世・同セツ子・田中義一・樽谷嘉彦・前田泰敬・同文子
 理 3 奥野静子・金多潔・後藤業明・同千代子・竹原登・松村賢吉
 理 4 川島康生・同操子・桜井倬治・新家莊平・中原充雄・西村順三
 受付 阪田訓子 以上 会員 43 名 夫人 17 名 計 60 名

⑦運動部・同好会だより

＊水泳部 琳琅会 24 年 6 月 10 日（日）11 時 30 分～14 時

於 阪急ターミナルビル ゆりの間（レストラン有馬）

出席者 15 理甲三木卓一・16 理 1 井上貞敏（付添 1）・17 文 2 螺良英郎・
 17 理甲 1 川端義則・17 理甲 2 森田桂・20 理 3 伊藤彰信・延原久雄

以上 7 + 1 名

当会は 高齢のため出席者にとって負担がかかるので、今後は休会と決まりました。

＊待兼山俳句会（第 511 回）24 年 5 月 21 日（月）於 大阪倶楽部 会議室

出席者 林 直入・長山あや・井上浩一郎・上田元彦・大塚磨央・片岡京子・佐伯箕川
 佐伯道子・須賀洋一・鈴木輝子・鈴木敏夫・瀬戸幹三・寺岡 翠・西村浩風
 東中 乱・平井瑛三・三宅洛艸・山戸暁子 以上 18 名

投句者 川崎香月・斎藤義雄・阪本ゆたか・田中嵐耕・鶴岡言成・中村和江・

根来眞知子・東野太美子

以上 8 名

合計 26 名

兼題 新樹・袋掛（直入） 朴の花・筍飯（あや）

選者吟 袋掛しても侵せし虫の知恵 直入

館新樹結婚式が二組も

朴の花開いてありし二階窓

からまつの新樹に山荘閉ぢたまま

朴咲いて庭の重心空にあり

新たなるまなこに新緑眩しかり

林 直入特選 流れ行く雲の行く手に朴の花

風薫る金環蝕の小半時

七曲り眼下に確と朴の花

人の嗅ぐ高さに薔薇の咲いてをり

袋掛右に左に島のバス

袋かけ終へて一泊旅行とや

ほらあそこそれでも見えぬ朴の花

直入

あや

洋一

元彦

洛艸

幹三

太美子

輝子

輝子

長山あや特選	露の葉の大風呂敷を拵けたる 金環食新樹のかをる庭に立つ メサイヤ果て新樹の闇に紛れ行く 豊作の筍が又来るといふ 娘が炊きし筍飯に妻の味 ふと浮かぶ筍飯の待つ夕餉	直入 輝子 翠 道子 洋一 乱
--------	---	--------------------------------

*待兼山俳句会（第 512 回） 24 年 6 月 18 日（月） 於 大阪倶楽部 会議室

出席者	林 直入・長山あや・井上浩一郎・上田元彦・片岡京子・須賀洋一・鈴木輝子 鈴木敏夫・瀬戸幹三・鶴岡言成・寺岡 翠・西村浩風・根来眞知子・東中 乱 三宅洛艸・山戸暁子	以上 16 名
投句者	斎藤義雄・阪本ゆたか・田中嵐耕・中村和江・平井瑛三	以上 5 名
		合計 21 名

兼題 栗の花・築（直入） 鳥の子・さくらんぼ（あや）

選者吟	栗の花匂ひこめかみ痛くなる 築番屋とは朝酒も昼酒も 雨空の続く紫陽花腐つまで 倅せのいろの濃淡さくらんぼ 村ひとつ花栗の香に沈みをり 人近く棲む街の子よ鳥の子	直入 あや
林 直入特選	築を打つ運よき魚は逃れよと 額の花一人住まひの芥わづか いたづらをせむとや育つ鳥の子 伸びすぎて心もとなき立葵 築かけて峡の十戸の深眠り 北国の日ざし詰まりしさくらんぼ 素朴なる築のたくらみ恐ろしく	浩一郎 暁子 輝子 京子 浩風 京子 浩一郎
長山あや特選	一人居の庭の朝日やさくらんぼ 子鳥の枝移りして親ばなれ 築番屋とは朝酒も昼酒も 築小屋の真中にでんと大薬罐 築かけて峡の十戸の深眠り 雨意重し匂ひ動かぬ栗の花 桜桃のさざめき紅く盛る白磁 素朴なる築のたくらみ恐ろしき 築衆のみんな酒好き博打好き 復興の便りのひとつさくらんぼ	敏夫 ゆたか 直入 浩風 浩風 眞知子 浩一郎 浩一郎 直入 洋一

*待兼山俳句会（第 513 回） 24 年 7 月 9 日（月） 於 大阪倶楽部 会議室

出席者	林 直入・長山あや・井上浩一郎・上田元彦・大塚磨央・片岡京子・須賀洋一 鈴木輝子・鈴木敏夫・瀬戸幹三・鶴岡言成・寺岡 翠・西村浩風・平井瑛三 山戸暁子	以上 15 名
投句者	斎藤義雄・佐伯箕川・佐伯道子・阪本ゆたか・田中嵐耕・中村和江 根来眞知子・東中 乱・東野太美子・三宅洛艸	以上 10 名
		合計 25 名

兼題 噴水・ボート（直入） 日焼・夕顔（あや） 卓上に木槿（底紅）

選者吟	噴水を時にもぎ取る風強し 座礁てふ難義がボート遊びにも 日焼けたる訳を女房くどくどと 噴水に時をゆだねて人を待つ ほどけそむ夕顔に闇ひそと寄す 底紅の紅抱きしめて鎮もれる	直入 あや
林 直入特選	昼下がりボートに猫の寝てゐたり 道問へば日焼の顔の集まれり	輝子 幹三

	言ふことを聞かぬボートや初デート	翠
	のど自慢日焼の顔が愛歌ふ	輝子
	ギリシャ神戯る噴水人群る	翠
	日焼せる顔のいひわけより始む	道子
	少々の日焼も老の庭仕事	浩一郎
長山あや特選	言ふことを聞かぬボートや初デート	翠
	夕顔やネクタイ外しーと日終ふ	浩風
	底紅をゆかしく咲かせ家古りぬ	浩一郎
	夕顔を灯し狭庭の闇深し	言成
	コックスの声よく通るボート勝つ	敏夫

⑧新刊紹介

佐伯 秀穂（17 文 1） 著

『海外営業マン ドサ回り奮闘記』 慧文社刊 定価 本体 1500 円
24 年 7 月 12 日付けサンケイ新聞より転載

産経抄

1 ヶ月ほど前のコラムで、丹羽宇一郎駐中国大使に対して「やめなさい」と書いた
ら、「久しぶりに快哉を叫んだ」とのファクスを頂いた。差出人は意外な人物だった
▼元倉敷紡績専務の佐伯秀穂さんは、もともと外務官僚の上層部に民間ビジネスマンを
起用すべきだ、と主張してきた。伊藤忠元社長の丹羽氏が、中国大使に決まったときも、
「まことに頼もしい」とエールを送っている ▼二等兵として終戦を迎えた佐伯さんは、
東大に復学して、マッカーサー司令部のスタッフによる出張講義で英語を学んだ経験をも
つ。入社後は、一貫して輸出業務に携わってきた。五大陸 60 カ国以上で、いかに激
しい商戦を繰り広げてきたかは、今年 5 月に上梓したばかりの『海外営業マン ドサ回
り奮闘記』（慧文社）にくわしい ▼なかでも痛快なのが、1972 年にニューヨークの一
流ホテルで現金 700 ドルを盗まれたときのエピソードだ。泣き寝入りを拒否した佐伯さ
んは、総支配人に面談を申し入れる。ホテルの経営哲学について論じ、総本部に報告の
手紙を出すのと迫り、損害賠償と豪華スイートの無料提供を勝ち取ったという ▼大声で
怒鳴れば、日本人は言うことを聞く。そんな認識が国際社会で広がっている現状に、佐
伯さんは危機感を募らせてきた。それれだけに丹羽大使の尖閣諸島についての発言には、
ショックを受けたらしい。ご自宅に電話を入れると、「外務省の事なかれ主義に染まっ
たのかなあ」と残念そうだった ▼とはいえ、政治家と官僚だけに外交は任せられない、
との主張を曲げるつもりはない。「もっと若ければ、喜んで大使を引き受けています」。
85 歳とは思えない元気な声が返ってきた。

★ご案内

* 船場大阪を語る会 第 164 回例会 ご案内

日 時 24 年 8 月 25 日(土) 13 時 30 分～ 16 時

会 場 さいかくホール(府庁新別館北館 1 階)

アクセス 地下鉄(谷町線・中央線)谷町 4 丁目駅下車、①番出口を出て、そのまま
地下道を北へ約 100 m、突き当たりを右へ、奥のエレベータをご利用下さい。

講 師 関西大学文学部教授 藪田 貫 氏 関西大学博物館長・大阪都市遺産研究センター長

演 題 「天下の台所」の侍たち～大塩平八郎をめぐる人々～

会 費 1,000 円(入会金、年会費不要)

・連絡先 船場大阪を語る会事務局 三島佑一(22 理 2)

〒 550-0014 大阪市西区北堀江 4-12-10-609

TEL・FAX 06-6532-3094

共 催 大阪府(文化課)